

平成29年度第6回甲賀市観光振興計画審議会 会議録

1 開催日時

平成29年(2017年)7月27日(木)午前9時30分から11時まで

2 開催場所

甲賀市役所 3階 301会議室

3 出席委員

木川委員(委員長)、平岡委員(副委員長)、横川委員(副委員長)、清水委員、
村山委員、和田委員、大河原委員、藤田委員、川島委員、寺内委員

計10名出席

欠席委員

友田委員、住田委員

事務局

甲賀市役所 正木副市長

産業経済部 中島部長、伴次長

観光企画推進課 黒田課長 神山課長補佐

支援事業者

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 宮内、福嶋

4 会議次第

1 開会

○市民憲章唱和

2 挨拶

3 協議事項

(1)第2次甲賀市観光振興計画(案)

4 その他

(1)今後のスケジュール

5 閉会

5 会議資料

第2次甲賀市観光振興計画(案)

第2次観光振興計画の修正について

6 会議内容

1. 開会

○市民憲章唱和

2. 委員長挨拶

副市長挨拶

—副市長、部長退席—

3. 協議事項

【委員長】 会議の成立について事務局よりご報告をお願いします。

【事務局】 甲賀市観光振興計画審議会規則第3条第2項の規定に定める委員の過半数の出席があるため会議が成立していることを報告します。

(1) 第2次甲賀市観光振興計画（案）

【委員長】 それでは協議事項1点目の第2次観光振興計画（案）について事務局より説明をお願いします。

【事務局】 —資料「第2次甲賀市観光振興計画（案）」に基づいて説明—

【委員長】 ここまでの説明について質問等あるか。今回審議会として集まった理由は、総合計画の策定に伴うものと日本遺産認定にかかる観光振興への反映があったと伺っている。まずは総合計画の関連の修正について質問をいただきたい。今回の総合計画では人口フレームが大きな位置づけになっているようだが、観光に対して総合計画がどういう視点をおいているのか。人口が減少していく中で、他の地域ではそれを賄う意味で外国人観光客を誘致するということまで言われることもあるが、そこまでの人口と観光の関連が位置づけられるという訳ではないのか。

【事務局】 総合計画でも観光における交流人口拡大の必要性、観光の意義は盛り込まれていますが具体の人口まで設定されているものではありません。

【委員長】 総合計画の内容を踏襲したものとなっていると考えてよいだろうか。それでは、日本遺産の認定を受けたことにより、観光振興計画にとっては大きな意義があるものと思われる。これを受けての修正について質問等はあるだろうか。私からになるが、今後、甲賀市で他の日本遺産を申請していく予定はあるのか。

【事務局】 特に予定はしていません。可能性としては東海道であります。具体的に申請事務等は動いてはいません。

【委員長】 日本遺産の認定によって新たに施策として取り組まれる予定のことなのか。

【事務局】 忍者を核とした施策はこれまでもあったが、日本遺産が二つある観光資源

に優れたまちとして推し進めて行こうという動きは出ているところです。例えば、本日チラシを配布していますが、日本遺産をきっかけとして観光に係る産業の活性化と地域の力の活用を目的として、観光ビジネスに係るシンポジウムを8月17日に予定しています。ぜひご参加いただければと思います。これまでの資源を活用しながら商売への参入へのきっかけや新たな産業化へのきっかけづくりと考えています。

【委員長】 総合計画のパブリック・コメントにおいて、「地域の観光資源ではなく地域の宝としてまずとらえてほしいと思う。」という意見があるが、地域の意見として非常によくわかる。同時に、この観光振興計画においてはこういった意見に対する答えがなかったため、ここでの意見につながっているのではないかと感じられる。多くの地域で人口減少する中、観光がなければ地域インフラを維持できないという意味合いもある。こういった意見があるということは、住民の意識としてはこれまでもこれからも変わらないという意識があるのかとも思うが、行政的にはこの先厳しいことを意識しての観光だと考えるべきである。その中で、こういう意見に対してしっかり答えられる回答がなかったのかと思う。市民がなぜ観光が必要かということをもう少し盛り込めると良いのかとこの意見を見て感じた。

【事務局】 観光振興計画（案）に課題の項目を設け、課題の抽出を行っている。しかしながら、人口減少社会の到来から観光にかかる期待が大きく計画のはじめの方に目的意識として記載すべきとのご意見でよろしいですか。

【委員長】 例えば、行政がなぜ観光なのかと問われてどう答えるかということである。それが織り込まれていなければ説得力が弱いということになる。勝手に行政がやっているのではなく市民のためになることだということである。実際に北海道など観光地にならなければ路線が減って住民が困ることになっている。だからこそ観光だということだが、みんなで共有できる言葉があると良いかと感じた。

【事務局】 1 ページ目の「計画の趣旨」の交流人口拡大について盛り込んでいくということによろしいか。

【委員長】 私の意見ではあるが、観光業界が儲かるためではなく、甲賀市の行政課題として、しっかり観光に向き合う大事さがあると考えます。

【委員】 委員長が言われたことについて、私も住民が自慢できるというベースがあって初めて観光が成り立つと考えている。それがなければ観光で成功するのは難しいと考える。

【委員】 市民と行政の温度差があるということだが、市民が地域の宝に愛着を持ってもらうということは観光計画に盛り込むことなのか。

【委員長】 一般的には観光計画に盛り込むものではないと思われる。

【委員】 観光計画に盛り込む話ならいいが、そうでないなら例えば文化財の計画と

の連携だと思う。

【委員】 観光のとらえ方だと思う。水口、土山、甲南、甲賀では地域振興という意味合いが強く、信楽は産業振興が盛んという印象があり、過去からの成り立ちが大きく異なっている。今後は観光が産業化する取り組みにならなければ雇用や税収等の先行きが厳しいということが大きな流れであり、効果においてもまちおこしから産業振興や観光振興にシフトした観光協会であればならず、関係者だけでお金を使って喜んでいてはいけない。それをどこかのタイミングで地域に知ってもらいたい。

【委員】 その課題を知ってもらうプロセスはどこが担うのか。

【委員長】 それは総合計画の人口減少への取り組みにも関わる。市を挙げて住民の認知に取り組む必要があるところである。市民に危機意識をもってもらうのはいつなのか。そういう危機感を共有するために観光施策で何かすることは違うと思う。総合計画をどういう形で皆に浸透させていくことになるのか。多くの市民は総合計画を読んでいないが、行政も何かしら伝えようとはしていると思う。

【事務局】 総合計画の内容周知については議会での報告、広報誌での概要の掲載、ホームページ等であります。多くの市民はなぜこういう計画にいたったのかは、対面で話してはじめて理解いただける内容だと感じます。作成した計画を読んでいただいただけで理解してもらうことは難しいと考えます。

【委員長】 少なくとも総合計画の策定はすべての部署が絡んでいることを理解して進んでいると思う。そういう行政の危機感は住民には伝わっていない可能性があるということになるだろうか。

【事務局】 策定の過程においてもタウンミーティング等で市民の意見を聞く機会は持っていますし、その前段階として人口減少の見込み等もお知らせした中でどういう計画をつくるかの議論はしています。毎年度の予算編成のなかでも、人口減少に立ち向かうということで具体的に地域での稼ぐ力を高めていくといったことも施策の柱として打ち出しており、アナウンスはしています。総合計画も6月の議会で議決を得ましたが、今後計画の内容について市民に周知する取り組みも必要と考えます。

【委員長】 その総合計画の説明の中で、観光はどのような説明になっているだろうか。

【事務局】 交流人口を拡大するための切り口として観光がその責務を担うという位置づけであると考えています。また、日本遺産に認定された資源を市民に認識していただくと同時に、日本遺産に認定された歴史的な資源を新たなビジネスチャンスにつなげていくきっかけづくりとしてシンポジウムを開催する予定です。地域の稼ぐ力を高め、経済の好循環を生み出すことも観光の担う大きな役割として位置づけられています。

【委員】 17ページの基本的な考え方の部分で書かれているが、「まちの魅力を行政

だけでなく市民・事業者等と広く共有し」ということは書かれており、観光振興計画の中で市民の意識改革をしていこうとしている。

【委員長】 そこが観光の難しいところで、古い観光施策と新しい観光施策の取り組みがあり、新しい観光施策も含めた観光振興計画になっているが、市民には浸透していないかもしれない。

【委員】 私もここでの議論を通じて昨今の観光の概念も知ることができたが、市民はそこまで理解できていないかもしれない。

【委員長】 基本理念の部分でなぜ観光かということが明確になればよいと思うし、まちづくりの部分と従来型観光の両方の高まりが見えてくれば、新しい観光施策が成り立っていくのかと思う。

【委員】 今回のシンポジウムでは観光ビジネスという言葉が強く出ている。市民にとってはあまりなじみがないだろうが、今後は観光ビジネスを育てようというきっかけのシンポジウムだと思う。ここでは観光ビジネスがどういう影響が出てくるのかということが関心のある人にどう伝わるかがわかれ道だと思う。古い観光イメージだけだと関係ないというだけで終わってしまわないかと心配する。

【委員長】 今まで甲賀市では、観光として定期バスが回ってくるようなことがこれまで十分あったのか。まだ浸透していないなら、今なら行政も補助を出すなどして認知が高まれば、近所の定食屋で客が増えてきたとか、空き家を外国人が民泊として活用するようになったといったことが、分かりやすい観光の視点であろうと思う。その時に、地域の宝というイメージからすると、知らない人が来たということで抵抗が生まれる。その前に、こう進めていかねば人がいなくなるというところを想像してもらう必要があると思う。そういう軋轢を解消する言葉が織り込まれて説明できていると良いと思う。新たに日本遺産を活用して観光ビジネスをとということだが、ほったらかしでは誰もはじめないので、呼び水となる補助などは必要だと思う。

【事務局】 今年度から施策として、観光ビルドアップ事業という補助制度を創設いたしました。ホームページに掲載させていただいておりますが、観光ツアーの開発やイベントの開催を旅行代理店、市内の事業者、観光まちづくり団体、観光協会、商工会などに担っていただくための補助制度となっており、最大50万円を補助するというものです。すでに数件問い合わせをいただいております。また、年度末でないとも成果・評価を検証することはできませんが民間の活力が反映できる事業として、取り組みをはじめましたのでご報告させていただきます。

【委員】 すでに京都発で伊賀・甲賀の忍者ツアーを日帰り販売している旅行代理店がある。この補助が追い風となってくれれば嬉しい。

【委員長】 今が投資の時でないかと思う。いま和歌山でも和歌の浦が日本遺産に認定

されたが、すでにホテルの全面改装など着手されたことが話題となっている。ニュースになった瞬間に乗せていかなければ、3～4年たつとインパクトが無くなってしまう。

【委員】 ビルドアップ事業においては、補助対象外の事項も多く、もう少し規制を緩めていただけるとありがたい。

【事務局】 1件50万を補助の上限とし10件までを予算化しています。今年度から創設した事業のため、継続して調査・研究し、必要となれば補助要綱等の見直しも含め検討していきたいと考えています。

【委員長】 観光ビジネスや交流人口を考えるなら、甲賀市に宿泊した上で周遊した方がいいと思う。しかし、1泊2日を見ると、厳しい環境である。移動手段が観光バスか自家用車しかない。定期バスがあれば来客は増えるかもしれない。また、旅行代理店にモニターツアーなどもやってもらいたい。とはいえ初めによほど行政の支援がないと事業者は大きなリスクを伴う。熱意ある地域は今後観光地になり、熱意がないところはそのままという分岐点にあるというのは言い過ぎだろうか。

【事務局】 そういったツアーパッケージの開発や受け入れ体制の充実などの要素があるが、これまで色々な施策に対して成果検証や事業の拡充などの判定が曖昧になっていた部分もあるため、日本遺産認定を契機に体制を立て直していきたいと考えています。

【委員】 日本遺産の認定については喜ばしいことだと思う。これを活かしていくのは重要だと思う。しかし、信楽焼と忍者を結び付けての観光振興はなかなか難しいと感じる。観光振興計画についてということではないが、キックオフイベントについても少し拙速な感じを受けている。今年の2月に忍者でシンポジウムもやっているのだから今回は六古窯 信楽に焦点をあててもよかったのではないかな。

【委員】 市民の立場からすると日本遺産についての盛り上がりは感じない。テレビで取り上げられた以降は特に感じることはない。シンポジウムも同様に市民の参加の機運が高まるのか不安がある。

【委員長】 日々の営みの中にビジネスチャンスが隠れている。というのはわかりにくいかもしれない。そういう事例も含めて誰もが関連するものと捉えられると良い。

【委員】 ビジネスについてはお金が落ちるインフラと考えると一番大きい要素は宿泊である。現状では宿泊施設が少ない。容量そのものが不足しており経済効果が出にくい問題がある。効果を上げるためにビジネスとしてどこに手を加えるかという点で、宿泊などについて提案する場が必要になる。さらに経済効果を検討するなら、どこかで誘客する仕掛けも必要となる。そういう起点になるようなところをタイミングよく出してほしいというのが望

みである。金額よりもタイミングだと思う。ビジネスと言ってしまうと曖昧だが、そういう部分のところに關心のある人が気づいてくれるようなシンポジウムになってほしい。

【委員長】 実際に空き家の活用に取り組んでいる人がシンポジウムに参加できると良いと思う。

【委員】 先日、東京から多文化共生の学習に甲賀市に来た高校生がいる。甲賀市の地域経済と地方創生というゼミで来てくれたが、それをきっかけに「忍者のまち甲賀を歩こう」という企画を高校生や日本語教室の外国人に声をかけて実施したところ、高校生は12人、日本語教室学習者が39人の参加があった。いろんな国からの参加者があり、一緒に公共交通機関と徒歩で周遊した。忍者の衣装を観光協会から借りていたが、細かなルートを知らせていなかったにも関わらず、忍者のまちを忍者の服を着て歩くという企画で日本語教室を中心に案内してもらっただけで非常に多くの参加を得られた。外国人の口コミや他の地域からの友だちのネットワークの力である。外からバスを乗り付けてくる観光客も大事だが、すでに住んでいる外国人から発信するのは、観光協会ではなく国際交流協会ができることなのだろうかと感じた。いろんな観光スポットがあるが、駅前から土日になるとバスがない。甲南町の情報交流センターぷららで国際交流イベントを開催するが、そこへ行くバスも土日運休である。せめて甲賀の観光地を巡る公共交通機関には力を入れてほしいと思った。また、東京の高校生が言っていたことが、名物がないということである。甲賀市のまちづくりや観光についていろんな意見を高校生が出してくれたので、取りまとめて何かしたいと思っている。また、こうした取り組みから信楽高原鐵道の利用促進にもつながったのではないかと思う。

【委員長】 計画にも反映したが、DMOになっていくと横のつながりが生まれてくるということになるだろうか。

【委員】 私の住んでいるところでは空き家もずいぶん増えている。空き家対策として行政もいろいろ考えているが、市外の方が何かしようということにはなっていない。農業振興課で取り組んでいる中学生の修学旅行の農家体験の受け入れもしているが、農業体験をさせてほしいという目的であるが、時期によっては農業も終わってしまっている時もある。観光やくすり学習資料館などに連れて行ったり体験してもらったりもするが、それが中学生や家族にどういう風に広めて行ってくれているだろうかと思う。

【委員】 甲賀町は丘陵地帯でどこを走っていても同じ風景が広がっているが、市外から来た人は綺麗だという。観光地としては市外から来た人は自分の生活ベースで見ると違って見えるが、住んでいる人間は分からないところがある。

- 【委員】 信楽でも煙突が建っているだけで、地元の間人は普段のものなので珍しくもないが、来た人は写真を撮っている。
- 【委員】 従来型の観光で観光バスが設定されたルートを回るのではなく、新しい観光まちづくりが重要であることは共通の認識だと思う。日本遺産を活用してどういうまちづくりをしていきたいかの方向性は示す必要があると感じた。施策として補助金をつけてということもあるが、事業者からの申請を受けても、ばらばらの取り組みでは意味がないと思う。こういう方向性でやりたいからその事業に補助をするというように具体的にされていくと良いと思う。日本遺産は観光素材としては地味なものばかりで、それだけを目的に来ることはあまりないと思うが、それをきっかけに忍者を核とした取り組みを食事や宿泊、まち歩きなどにひもつけて一体感のある取り組みになっていくと良いと思う。これからの取り組みだと思うのでそれを意識しながら一緒に作っていただけると良い。京都の精華町で日本遺産サミットがあった時に参加したが、日本遺産サミット自体の関係者は知っているが意外と近隣の家族も多かったのに驚いた。それは地域が集まって特産品が食べられたりゆるキャラが来ていたりというわかりやすいものもあってのことだったが、そういう直接的な効果だけでなく間接的な効果も得られるような取り組みになると良いと思う。
- 【委員長】 旅行代理店の観光ツアー開発のプロセスについて質問させていただきたいのだが、一泊二日のプランを売りたい時には、地元主体で提案する方がよいのか事業者がつくるのか一般的にはどちらか。
- 【委員】 事業者発の方が広めやすいが、日本遺産はどう関わっていいかわからないということが念頭にあると思うので、ある程度方向は示される方がよいと思う。
- 【委員長】 大学生の観光プランコンテストなども事業者として取り入れたいということがあるのか。
- 【委員】 旅行代理店主催で同様のコンテストを実施したことがある。アイデアだけでは十分ではないので評価者をいれてモニターツアー化していくことはある。
- 【委員】 いろいろと一市民の立場で考えていると、今の観光振興計画についても行政がつくって出来上がっていく。しかし、はたして全市民に配布しても見て、理解できる人が何人いるか。ゼロに近いのではないかと思う。どうやって市民に理解させるかは難しいことだと思う。市民だけでなく関連の事業者ですら理解してもらうのは難しいと思う。このシンポジウムについても、どういう形でPRする計画を持っているのか。私自身あまり魅力を感じない。難しいことをわざわざ時間を割いていきたいとは思わない。市民はほとんど行きたいと思わないと思う。200人も入れれば上出来ではない

か。どうやってイベントを成立させるかは疑問だと思っている。

また、夏の灯火キャンペーンだが、これまでに5つ終わっている。私は全部参加しており、確かに地域の方が一生懸命頑張っているのを目の当たりにして、良くやっていると感じたが、市外からきている人はほとんどいない。矢川神社の七夕祭りも、手筒花火を20本も上げる情景が見られるのはめったにないことであるのに、PR不足なのか来ているのは甲南町の人だけである。カメラマンは情報を集めることが得意なので名古屋からバスで来た者もいた。しかし、一般にPRができていない。いろんな甲賀を巡るツアーは、アイデアはいいがすでにあるものがたくさんある。非常に珍しい取り組みもあるが、PR不足になっている。出場者は市外からきていても観客は地元だけである。興味のある人は来ても一般市民は来ないので全体の観客は200人程度にとどまっている。ネタがあるのに集められていないのは情報発信の問題だと思う。新聞のお知らせ欄などがあるが、ほとんど甲賀のことが載らない。また、新聞の記事も事後での掲載となるので事前告知が掲載されることはない。広報誌やホームページでも、観光に関わる催事等がほとんど載っていない。もっとあるのだからもっと掲載して、毎日更新して情報発信しないのかと思う。

【委員】 灯火のキャンペーンの企画の意図だが、町内だけの盛り上がりになっていて、市内で広まらない。それでは観光協会として成立しない。振興している立場からすればもっと市民に知ってほしい。そのため、キャンペーン広告を作成し発信に至ったものである。キャンペーンを開始するまでは地域での参加が8割であった。

【委員】 私はすべて参加して写真も撮っている。一般市民にまでなかなか浸透はしないと思うが、関係業者くらいはもっと積極的に情報発信しなければ、観光ビジネスのきっかけと言っても地元の事業者が行きたいとは中々ならない。それを来させるように仕向けなければならない。

【委員長】 外国の方も集まったり、いろんなイベントもあるなど資源はたくさんあるということである。観光は静かに高まることはあまりなくて、ブームがまずあってということが多い。そのため、どのようなブランディング戦略をたて、売っていくかということで足並みそろえる必要もあると思う。本来市民の代表は議会の議員であるが、甲賀市の行政課題を解決する策に観光が重要な役割を担うことについて共有されていれば心配はない。この審議会から、観光施策については一定の先行投資の覚悟が必要であること意見として上げてもらえればと思う。

【委員】 観光振興計画が絵に描いた餅に終わらないように、目標指数などはかなりハードルが高いところもあるが、観光未来会議は発展的解消でDMOをつくるということになっている。補助が切れると解散になるようなDMOも

たくさんある中でしっかりした組織ができるように取り組まなければならないと思っている。

【委員長】 それでは、時間になってきたので本日の協議事項の審議は終了とさせていただきます。

【事務局】 本日の議論を踏まえて計画の一部を修正いたします。なぜ、甲賀市で交流人口を増やす必要があるのか、交流人口を拡大するためには観光が担う役割は重要であるということ認識するよう追記することによろしいか。

【委員長】 観光事業者を儲けさせるのではなくまちのためだということがわかる形にならなければならない。

【全員】 一異議なし

4. その他

(1) 今後のスケジュール

【事務局】 8月4日、当委員会を代表して木川委員長に市長への答申をいただきたいと考えています。木川委員長には遠路となりますがよろしく申し上げます。委員の皆様には今週末に委員会の議事録と修正案をお送りします。来週が答申となるため内容審査の時間が短くなりますがよろしく申し上げます。

5. 閉会